

区分・種別	県指定無形文化財
名称	とべやき 砥部焼
所在地	伊予郡砥部町
保持者氏名 (認定年月日)	亀田 茂樹 (平成31年2月15日) 白潟 八洲彦 (令和2年2月18日) 山田 ひろみ (令和3年2月24日) 二宮 好史 (令和6年2月16日)
指定年月日	平成17年12月27日
解説	<p>伊予郡砥部町とその周辺で生産される陶磁器を「砥部焼」と称している。江戸時代中期より陶器が焼かれていたと伝えられ、現在の磁器生産は、大洲藩が砥石屑を用いた磁器づくりを命じ、安永6(1777)年磁器焼成に成功したことが始まりとされている。文政元(1818)年に、鉄分含有量の少ない川登陶石<small>かわのぼりとうせき</small>が発見され、幕末期に胎土の改良が進む。明治期以降、砥部焼は地場産業として大きく発展を見せ、白磁や染付の伝統技法を基調に技術革新を繰り返しながら受け継がれている。また、昭和51年に通商産業省より「伝統的工芸品」として焼き物では6番目に指定されている。</p> <p>砥部焼は、白磁の肌に溶け込んだ呉須絵、素地の白さに調和した色絵、やや厚手の飾り気のない形と材質の堅さに特色がある。</p> <p>このように砥部焼は、技術革新を繰り返しながらも、伝統的な技法を基に、現代の感覚にあった製作活動が行われ、独特の芸術性を備えた陶芸技法として高く評価されている。</p>

写真は次ページ



故 酒井 芳美 氏 (令和元年7月9日失効)



故 工藤 省治 氏 (令和元年10月26日失効)



かめだ しげき  
亀田 茂樹 氏



しらかた やすひこ  
白潟 八洲彦 氏



やまだ ひろみ  
山田 ひろみ 氏



にのみや よしふみ  
二宮 好史 氏